

(様式第 10)

奈医病管 100-1号
平成 29 年 10 月 5 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 公立大学法人 奈良県立医科大学
理事長 細井 裕

奈良県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒634-8522 奈良県橿原市四条町840番地
氏 名	公立大学法人 奈良県立医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

奈良県立医科大学附属病院

3 所在の場所

〒634-8522 奈良県橿原市四条町840番地	電話(0744) 22 - 3051
--------------------------	----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無		
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	④腎臓内科
⑤神経内科	⑥血液内科	⑦内分泌内科	⑧代謝内科
⑨感染症内科	⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科	
診療実績			
リウマチ科：リウマチセンター			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 ④心臓外科 ⑤血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績 内分泌外科：耳鼻咽喉・頭頸部外科	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1病理診断科	2リハビリテーション科	3形成外科	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
108床	9床	床	床	875床	992床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	546人	124人	590.5人	看 護 補 助 者	85人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	25人	12人	27.4人	理 学 療 法 士	29人	臨 床 検 査 技 師	88人
薬 剤 師	56人	14人	61.8人	作 業 療 法 士	9人	衛 生 検 査 技 師	1人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	7人	そ の 他	0人
助 産 師	37人	8人	41.4人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	1人
看 護 師	814人	190人	894.6人	臨 床 工 学 士	37人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	27人
准 看 護 師	1人	1人	1.6人	栄 養 士	0人	そ の 他 の 技 術 員	0人
歯 科 衛 生 士	2人	3人	3.5人	歯 科 技 工 士	3人	事 務 職 員	197人
管 理 栄 養 士	9人	2人	9.9人	診 療 放 射 線 技 師	54人	そ の 他 の 職 員	0人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	42人	眼 科 専 門 医	10人
外 科 専 門 医	38人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	12人
精 神 科 専 門 医	14人	放 射 線 科 専 門 医	27人
小 児 科 専 門 医	19人	脳 神 経 外 科 専 門 医	16人
皮 膚 科 専 門 医	7人	整 形 外 科 専 門 医	24人
泌 尿 器 科 専 門 医	11人	麻 酔 科 専 門 医	21人
産 婦 人 科 専 門 医	18人	救 急 科 専 門 医	10人
		合 計	269人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (古家 仁) 任命年月日 平成 24 年 4 月 1 日

医療安全推進室長 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	779.1人	18.6人	797.8人
1日当たり平均外来患者数	2,141.5人	112.2人	2,253.8人
1日当たり平均調剤数	3019.4剤		
必要医師数	205人		
必要歯科医師数	9人		
必要薬剤師数	38人		
必要(准)看護師数	476人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	580.06m ²	鉄筋コンクリート	病床数	24床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 263.6m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	21床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 67.9m ²					
化学検査室	194.6m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 尿検査システム等			
細菌検査室	174.1m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析システム等			
病理検査室	176.7m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 検体搬送システム等			
病理解剖室	226.2m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 電動解剖/クリーンカットシステム等			
研究室	1,589.4m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 各種 実験・研究装置等			
講義室	460.4 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2室	収容定員	317人
図書室	1,303.1m ²	鉄筋コンクリート	室数	5室	蔵書数	146,024冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		88.95%	逆紹介率	63.93 %
算出根拠	A: 紹介患者の数			20,133人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			16,647人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			3,029人
	D: 初診の患者の数			26,038人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
水本 一弘	和歌山県立医科大学 麻酔科学	○	医療安全推進室長であり、医療にかかる安全管理に関する識見を有するため	有・ 無	1
加藤 高志	大阪弁護士会 加藤高志法律事務所		医療訴訟経験が豊富で、法律に関する知識を有するため	有・ 無	1
末廣 貴子	ボランティアグループ ラポール		病院の状況への理解が深く、医療を受ける側の立場からの客観的意見を得られるため	有・ 無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
公表の方法 病院ホームページでの公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	なし	取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	56	ベーチェット病	35
2	筋萎縮性側索硬化症	37	57	特発性拡張型心筋症	111
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	31
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	23	60	再生不良性貧血	49
6	パーキンソン病	275	61	自己免疫性溶血性貧血	3
7	大脳皮質基底核変性症	6	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3
8	ハンチントン病	4	63	特発性血小板減少性紫斑病	69
9	神経有棘赤血球症	1	64	血栓性血小板減少性紫斑病	2
10	シャルコー・マリー・トゥース病	6	65	原発性免疫不全症候群	8
11	重症筋無力症	78	66	IgA腎症	71
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	31
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	74	68	黄色靭帯骨化症	18
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	28	69	後縦靭帯骨化症	60
15	封入体筋炎	6	70	広範脊柱管狭窄症	4
16	クローウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	87
17	多系統萎縮症	32	72	下垂体性ADH分泌異常症	11
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	84	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	4	74	下垂体性PRL分泌亢進症	15
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	6
21	ミトコンドリア病	5	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	51	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	13
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	92
24	亜急性性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	21	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	76
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	36
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	16
32	自己食空胞性ミオパチー	1	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	11
34	神経線維腫症	18	89	リンパ脈管筋腫症	3
35	天疱瘡	25	90	網膜色素変性症	11
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	4
37	膿疱性乾癬(汎発型)	9	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	101
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	3
40	高安動脈炎	27	95	自己免疫性肝炎	14
41	巨細胞性動脈炎	3	96	クローン病	71
42	結節性多発動脈炎	11	97	潰瘍性大腸炎	205
43	顕微鏡的多発血管炎	55	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	9	99	慢性特発性偽性陽閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	3	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	20	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	24	102	ルピンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	221	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	101	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	107	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	32	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	27	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	7	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	4	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	13
113	筋ジストロフィー	19	163	特発性後天性全身性無汗症	3
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	1
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	2	167	マルファン症候群	1
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	1
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	1	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	1	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	1	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	1	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	2	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	2	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	2	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	70	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	4
224	紫斑病性腎炎	1	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	1
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	2	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペルトレノナー・ウェーバー症候群	0
234	ベルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	1
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシユスプルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性降炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	3
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナパン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	1
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

65
1565

48
1305

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・高度難聴指導管理料
・糖尿病合併症管理料	・がん性疼痛緩和指導管理料
・がん患者指導管理料1、2及び3	・外来緩和ケア管理料
・移植後患者指導管理料	・糖尿病透析予防指導管理料
・外来放射線照射診療料	・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)
・がん治療連携計画策定料	・排尿自立指導料
・肝炎インターフェロン治療計画料	・薬剤管理指導料
・医療機器安全管理料1	・医療機器安全管理料2
・医療機器安全管理料(歯科)	・歯科治療総合医療管理料
・持続血糖測定器加算	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・胎児心エコー法
・ヘッドアップティルト試験	・長期継続頭蓋内脳波検査
・光トポグラフィー	・神経学的検査
・補聴器適合検査	・小児食物アレルギー負荷検査
・内服・点滴誘発試験	・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)

・画像診断管理加算1	・画像診断管理加算2
・遠隔画像診断	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・CT撮影及びMRI撮影	・冠動脈CT撮影加算
・外傷全身CT加算	・心臓MRI撮影加算
・乳房MRI撮影加算	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・外来化学療法加算1	・無菌製剤処理料
・心大血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・がん患者リハビリテーション料	・歯科口腔リハビリテーション料2
・通院・在宅精神療法	・認知療法・認知行動療法1
・精神科作業療法	・精神科ショート・ケア「大規模なもの」
・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・精神科デイ・ケア「大規模なもの」
・精神科デイ・ケア「小規模なもの」	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・医療保護入院等診療料	・硬膜外自家血注入
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)
・透析液水質確保加算2	・CAD/CAM冠
・歯科技工加算	・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。))
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算

・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1及び又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・内視鏡下筋層切開術	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・経皮的中隔心筋焼灼術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(レーザーシースを用いるもの)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・補助人工心臓	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・腹腔鏡下肝切除術	・生体部分肝移植術
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・同種死体腎移植術	・生体腎移植術
・膀胱水圧拡張術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・人工尿道括約筋植込・置換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・輸血管管理料 I	・貯血式自己血輸血管管理体加算
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・麻酔管理料(I)	・麻酔管理料(II)

病理診断

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
神経系腫瘍幹細胞を標的とした重粒子線と抗VEGF抗体併用の有効性	長谷川 正俊	放射線腫瘍医学	6,240,000	(補) 文部科学省 委
Flt-1系を介する心腎連関分子機序の解明:新規LncRNAの関与	斎藤 能彦	第一内科学	8,320,000	(補) 文部科学省 委
目閉スペクトラム症における前頭前野機能の多面的解析とその正常化への試み	牧之段 学	精神医学	3,380,000	(補) 文部科学省 委
藤島の生体内リプログラミング技術を用いた糖尿病の新規治療法の開発	山田 高嗣	消化器・総合外科学	6,500,000	(補) 文部科学省 委
胎児期子宮内膜症発生の実証と癌化機序の解明	小林 浩	産婦人科学	2,340,000	(補) 文部科学省 委
心臓血管手術中におけるレーザーベックル法による眼血流測定と術後視機能障害の検討	林 浩伸	麻酔科学	650,000	(補) 文部科学省 委
肝前駆細胞と既存薬剤を用いた肝疾患進展抑制治療法の開発	吉治 仁志	第三内科学	1,430,000	(補) 文部科学省 委
NASHの発症進展に関わる生活習慣病態と凝固線溶系を標的とした新規治療の確立	野口 隆一	第三内科学	1,430,000	(補) 文部科学省 委
メッセンジャーRNA投与による新たな心筋症治療法の開発と評価	尾上 健児	第一内科学	780,000	(補) 文部科学省 委
APC及びPSによる第VIII因子制御機構の解明及び新規血友病A治療薬の開発	武山 雅博	小児科学	1,300,000	(補) 文部科学省 委
血管内皮細胞による血流障害機構の解明および新規血栓止血制御戦略の構築	志田 泰明	小児科学	1,170,000	(補) 文部科学省 委
ウイルス由来ケモカイン受容体に着目したDIHSにおけるHHV6再活性化機序の解明	浅田 秀夫	皮膚科学	1,040,000	(補) 文部科学省 委
MRI分子画像を用いたナノDDSによる体内動態の解明から治療効果早期診断への応用	西尾福 英之	放射線医学	1,430,000	(補) 文部科学省 委
進行肝細胞癌に対する薬剤溶出性ビーズを用いた新規肝動脈塞栓術の開発	阪口 浩	放射線医学	1,820,000	(補) 文部科学省 委
クモ膜下出血後の遷延性脳虚血に対するADAMTS13の新規脳保護機能の解明	藤岡 政行	救急医学	910,000	(補) 文部科学省 委
悪性神経膠腫に対する抗てんかん薬を中心とする新規併用療法の開発と臨床応用	中瀬 裕之	脳神経外科学	650,000	(補) 文部科学省 委
骨形成細胞シートを併用した骨延長術の有用性に関する実験的研究	面川 庄平	手の外科講座	1,690,000	(補) 文部科学省 委
全身麻酔薬が糖尿病環境下にある癌細胞の増殖能に与える影響	瓦口 至孝	麻酔科学	1,170,000	(補) 文部科学省 委
非眼科的手術後の眼合併症の発生状況とその誘因に関する検討	川口 昌彦	麻酔科学	1,690,000	(補) 文部科学省 委
癌幹細胞マーカーCD44v9を標的とした難治性卵巣がんの治療戦略	棚瀬 康仁	産婦人科学	650,000	(補) 文部科学省 委
卵巣明細胞腺癌に対する新たな転写因子・セリンプロテアーゼ系マーカーの有用性	古川 直人	産婦人科学	1,820,000	(補) 文部科学省 委
軟骨伝導補聴器の音伝導効率の向上に関する研究	西村 忠己	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,690,000	(補) 文部科学省 委
頭頸部癌における糖代謝異常とEMTシグナル活性化に伴う癌浸潤・転移機構の解明	太田 一郎	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,430,000	(補) 文部科学省 委
脳蘇生におけるアミオダロン脳の保護効果に関する研究	井上 聡己	集中治療部	1,040,000	(補) 文部科学省 委
即時・早期荷重インプラントの骨結合獲得のための微小動揺の閾値と荷重開始時期の解明	村上 和宏	口腔外科学	1,040,000	(補) 文部科学省 委

筋再生の分子機構を指標とした骨転移患者に対する安全で効果的なリハビリテーション	城戸 顕	リハビリテーション科	1,040,000	補委	文部科学省
原発性肝細胞癌に対する薬物動態に基づく新規治療法および新規バイオマーカーの開発	浪崎 正	第三内科学	1,690,000	補委	文部科学省
白内障重症度が非視覚的光感受性に及ぼす影響：1100名の高年齢者調査	上田 哲生	眼科学	1,820,000	補委	文部科学省
循環器疾患患者の終末期医療に関する意思決定を支援する体制を構築するための研究	岡山 悟志	第一内科学	1,430,000	補委	文部科学省
三次元右室分割モデルを用いた三次元的右室部位別心機能評価のための新手法の開発	水野 麗子	中央臨床検査部	1,690,000	補委	文部科学省
肺の気腫化と線維化はなぜ均等に起こらないのか？：力学的異方性からのアプローチ	友田 恒一	医療安全推進室	1,430,000	補委	文部科学省
パーキンソン病とサーカディアンリズムに関する大規模調査	形岡 博史	神経内科学	1,560,000	補委	文部科学省
黄色ブドウ球菌菌血症の疫学の変遷と最適な治療法の解明	笠原 敬	感染症センター	1,430,000	補委	文部科学省
凝固第Ⅷ因子活性化・不活化機構の解明と新規凝固・抗凝固薬の応用に関する基礎的研究	野上 恵嗣	小児科学	1,300,000	補委	文部科学省
核成分に対する免疫寛容の破綻からSLE発症に至る機序の解明	宮川 史	皮膚科学	1,560,000	補委	文部科学省
脳梗塞患者でのアルツハイマー型認知症の発症リスクに関するPETアミロイド画像研究	安野 史彦	精神医学	1,560,000	補委	文部科学省
肺癌IVR治療における新規デバイスと治療法の開発	田中 利洋	放射線医学	1,950,000	補委	文部科学省
下肢閉塞性動脈硬化症に対する新規生体吸収型バイオスタントの開発	吉川 公彦	放射線医学	1,950,000	補委	文部科学省
難治性消化器癌に対する新たな集学的免疫治療戦略の開発	庄 雅之	消化器・総合外科学	1,430,000	補委	文部科学省
フィブリノーゲンによる癌の転移メカニズムの解明と新規癌治療への応用	若月 幸平	消化器・総合外科学	1,430,000	補委	文部科学省
多能性幹細胞からの誘導腸管を用いた、生体内長期培養による腸管移植への試み	植田 剛	消化器・総合外科学	1,560,000	補委	文部科学省
抗酸化作用を強化した十全大補湯を用いて放射線性腸炎を予防する	小山 文一	中央内視鏡部	1,690,000	補委	文部科学省
重症脊髄損傷に対する自家組織細胞シートを用いた新規再生医療技術の開発	田中 康仁	整形外科	780,000	補委	文部科学省
Translational applications of broad spectrum natural compounds and phytochemicals or their derivatives to the novel treatment strategy against sarcomas	朴木 寛弥	整形外科	1,300,000	補委	文部科学省
分子生物学プロファイリングによる膀胱上皮内癌治療効果と予後予測マーカーの探索	藤本 清秀	泌尿器科学	1,300,000	補委	文部科学省
妊娠高血圧症候群の病態悪化に関わる脂肪組織の影響～新規培養法を用いた証明	赤坂 珠理晃	総合周産期母子医療センター 母体・胎児集中治療部門(MFICU)	1,430,000	補委	文部科学省
高齢者の視機能がQOLに及ぼす影響と加齢黄斑変性の病態解明	緒方 奈保子	眼科学	1,690,000	補委	文部科学省
肝臓・腎臓における各種炎症病態形成へのADAMTS13の関与	西尾 健治	総合医療学	1,560,000	補委	文部科学省
即時荷重インプラントの骨界面における荷重伝達とオーバーロードの閾値の解明	杉浦 勉	口腔外科学	1,950,000	補委	文部科学省
口腔癌細胞における酸素中性子捕捉療法による転移・浸潤能の抑制効果の検討	桐田 忠昭	口腔外科学	1,690,000	補委	文部科学省
長鎖non-codingRNAの制御を介した新たな口腔癌治療戦略	山本 一彦	口腔外科学	1,690,000	補委	文部科学省
顔面の形態形成を制御する新規シグナルネットワークの解明	川上 正良	口腔外科学	1,560,000	補委	文部科学省

専門プログラムを用いた発達障害児支援者養成システム作りに関する研究	岩坂 英巳	精神医学	1,690,000	(補委)	文部科学省
簡便かつ安全に実施可能な術後静脈血栓塞栓症の管理基準の確立	川口 龍二	産婦人科学	1,560,000	(補委)	文部科学省
慢性閉塞性肺疾患における肺-消化管ネットワーク:Autophagyからの機序解明	木村 弘	第二内科学	2,340,000	(補委)	文部科学省
呼吸波形解析を活用した新たなCOPD治療戦略の構築—呼吸の安定化を目指して—	藤田 幸男	第二内科学	1,040,000	(補委)	文部科学省
慢性閉塞性肺疾患の新規治療戦略:全身性炎症の抑制をめざして	吉川 雅則	栄養管理部	1,560,000	(補委)	文部科学省
希少難治性筋疾患におけるオートファジーを介した蛋白分解機構と病態機序の解明	杉江 和馬	神経内科学	2,080,000	(補委)	文部科学省
VWF/ADAMTS-13/FⅫ制御軸による極低出生体重児の脳室内出血の病態解明	西久保 敏也	総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門(NICU)	2,470,000	(補委)	文部科学省
次世代の薬剤誘発リンパ球刺激試験の開発	小豆澤 宏明	皮膚科学	1,820,000	(補委)	文部科学省
シナプスプルーニング仮説に基づくiPS細胞由来神経培養系での統合失調症病態解明	鳥塚 通弘	精神医学	1,690,000	(補委)	文部科学省
社会経験で発達する前頭前野の局所的興奮・抑制性回路は治療ターゲットになるか	芳野 浩樹	精神医学	2,600,000	(補委)	文部科学省
ユビキチン修飾系異常を介した癌進展機序の包括的解明と新規癌治療法の開発	右田 和寛	消化器・総合外科学	1,430,000	(補委)	文部科学省
T細胞不活化経路をターゲットとする大腸癌肝転移の新規免疫療法の開発	北東 大督	消化器・総合外科学	1,560,000	(補委)	文部科学省
肝切除後肝不全におけるADAMTS13の関与及び新規肝不全治療戦略の確立	野見 武男	消化器・総合外科学	1,690,000	(補委)	文部科学省
Myosteatorsisの病態解明による膵癌新規集学的治療戦略の開発	赤堀 宇広	消化器・総合外科学	1,040,000	(補委)	文部科学省
ゼラチンシートの開発	谷口 繁樹	胸部・心臓血管外科学	1,560,000	(補委)	文部科学省
ミトコンドリアKATPチャンネルを介した虚血耐性現象のメカニズム	中川 一郎	脳神経外科学	1,560,000	(補委)	文部科学省
EGFRⅢ特異的CAR導入免疫細胞を用いた膠芽腫治療法の開発	西村 文彦	脳神経外科学	1,560,000	(補委)	文部科学省
超免疫不全マウスを用いた膠芽腫に対する免疫細胞およびPD-1阻害薬併用療法の開発	松田 良介	脳神経外科学	1,950,000	(補委)	文部科学省
術中皮質脳波におけるセボフルラン濃度切替・高周波振動はてんかん焦点を推定可能か	田村 健太郎	脳神経外科学	3,380,000	(補委)	文部科学省
頭部外傷に対するミノサイクリンの脳への直接投与の有効性についての検討	恵川 淳二	集中治療部	1,430,000	(補委)	文部科学省
膀胱癌細胞ミトコンドリア内における鉄利用メカニズムの解明とその臨床応用	中井 靖	泌尿器科学	1,300,000	(補委)	文部科学省
マクロファージの内因性レトロウイルス応答調節と血管保護による多発性嚢胞腎進展抑制	石橋 道男	泌尿器科学	3,900,000	(補委)	文部科学省
炎症惹起因子を中心とした妊娠高血圧症候群の病態解明	成瀬 勝彦	産婦人科学	3,250,000	(補委)	文部科学省
受容体を覆う「バンドエイド型」次世代ペプチド薬を用いた卵巣がん治療	吉田 昭三	産婦人科学	1,820,000	(補委)	文部科学省
子宮体部病変に対する極細複合型光ファイバー内視鏡診断と治療法の確立	重富 洋志	産婦人科学	1,950,000	(補委)	文部科学省
MIRスペクトロスコピーを用いた鉄濃度測定による子宮内膜症発癌リスクの新たな評価法	吉元 千陽	総合周産期母子医療センター 母体・胎児集中治療部門(MFICU)	1,820,000	(補委)	文部科学省
妊娠中における騒音ならびに分子標的薬の胎児聴覚への影響	成尾 一彦	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	3,120,000	(補委)	文部科学省
重度平衡障害者に対する感覚代行リハビリテーションの持越し効果とその実用化	山中 敏彰	めまいセンター	2,080,000	(補委)	文部科学省
社会的経験依存性前頭前野ミエリン形成と同部位シナプス形成との相関についての検証	牧之段 学	精神医学	1,040,000	(補委)	文部科学省

卵巣癌転移抑制効果を発揮するバンドエイド型短鎖ペプチドの試作と実証実験	小林 浩	産婦人科学	780,000	(補委)	文部科学省
系統的エラープルーフ法を用いたB型肝炎再活性化対策の構築	山崎 正晴	中央臨床検査部	520,000	(補委)	文部科学省
NOTCH1選択的阻害による新たな肝再生療法の可能性	北出 光輝	第三内科学	1,170,000	(補委)	文部科学省
広範囲骨欠損に対する骨形成細胞シートと血管束移植を用いた新規骨再建法確立の試み	清水 隆昌	整形外科	910,000	(補委)	文部科学省
ミノサイクリンが発達段階の脳における全身麻酔薬の神経毒性を抑制できるか?	西和田 忠	麻酔科学	650,000	(補委)	文部科学省
骨導超音波を用いた新しい耳鳴マスカ―療法の検討	山下 哲範	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,430,000	(補委)	文部科学省
硼素中性子捕捉療法(BNCT)による口腔癌細胞の生と死の制御機構の多角的解析	仲川 洋介	口腔外科学	1,430,000	(補委)	文部科学省
ラット下顎骨顎裂モデルを用いた骨芽細胞シートの顎骨再生に関する基礎的研究	前田 雅彦	口腔外科学	1,430,000	(補委)	文部科学省
睡眠時無呼吸症候群によるインスリン抵抗性の分子機構の解明	太田 浩世	第二内科学	1,820,000	(補委)	文部科学省
PIGFを用いた慢性腎臓病における心血管病、腎障害進展の新規予測法と治療法の確立	松井 勝	第一内科学	650,000	(補委)	文部科学省
社会経験依存性に発達する前頭前野の分子基盤の解明	紀本 創兵	精神医学	1,950,000	(補委)	文部科学省
頭頸部癌放射線療法後の有害事象の体系化:正常組織障害予測モデルを用いて	森本 将裕	放射線腫瘍医学	130,000	(補委)	文部科学省
寡分割大線量照射におけるLinear-Quadraticモデルの検討	藤谷 信将	中央放射線部	1,430,000	(補委)	文部科学省
ヒト降糖におけるCD200発現の臨床病理学的意義解明と新規標的治療の開発	木下 正一	消化器・総合外科学	1,170,000	(補委)	文部科学省
NMBAsの中枢神経への影響の解析	新城 武明	中央手術部	1,950,000	(補委)	文部科学省
着色眼内レンズがサーカディアンリズムに及ぼす影響に関する無作為化比較試験	西 智	眼科学	1,430,000	(補委)	文部科学省
CIHHV-6感染者におけるぶどう膜炎発生の割合とその特徴について	吉川 匡宣	眼科学	650,000	(補委)	文部科学省
下顎骨再建手術シュミレーションシステムの開発	上田 順宏	口腔外科学	650,000	(補委)	文部科学省
FFFビームを用いたIMRTにおけるMLCの品質管理に関する研究	若井 展英	放射線腫瘍医学	2,990,000	(補委)	文部科学省
エピジェネティックアプローチによる肝線維化治療の開発	鍛冶 孝祐	第三内科学	1,300,000	(補委)	文部科学省
心不全における核小体を介した細胞老化誘導機構の生理学的意義の解明	熊澤 拓也	血圧制御学	1,820,000	(補委)	文部科学省
肺線維症に対する間葉系幹細胞療法の試み-新規マウスモデルによる検討	熊本 牧子	第二内科学	1,820,000	(補委)	文部科学省
統合失調症の認知矯正療法による脳の白質微細構造および機能的結合の変化に関する検討	松田 康裕	精神医学	650,000	(補委)	文部科学省
新期薬剤溶出型バイオカバードステントの開発	市橋 成夫	放射線医学	1,170,000	(補委)	文部科学省
肝癌に対するビーズTACEにおけるIVR手技の標準化を目指した基礎研究	佐藤 健司	放射線医学	1,040,000	(補委)	文部科学省
ゼラチンを用いた医療用接着剤による気管支断端治癒の検討	河合 紀和	胸部・心臓血管外科学	1,430,000	(補委)	文部科学省
キメラ抗原受容体遺伝子改変iPS細胞由来T細胞の樹立と新規腫瘍治療法の開発	中澤 務	脳神経外科学	2,210,000	(補委)	文部科学省
脳静脈虚血における内因性神経幹細胞応用の基礎研究	竹島 靖浩	脳神経外科学	1,690,000	(補委)	文部科学省
新しい疼痛モデルマウスを用いた新規疼痛関連遺伝子の探索	寺田 雄紀	麻酔科学	2,080,000	(補委)	文部科学省

膀胱尿路上皮癌における制御性T細胞誘導に関与するケモカインの同定と治療応用	三宅 牧人	泌尿器科学	1,300,000	補委	文部科学省
変調骨導超音波の知覚メカニズムと補聴システムについての研究	岡安 唯	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,170,000	補委	文部科学省
口腔癌転移巣の微小環境を規定する新規マーカーの探索	栗原 都	口腔外科学	2,080,000	補委	文部科学省
抗癌剤治療中における味覚障害発生機序の解明と有効な治療法の開発	山本 育功美	口腔外科学	780,000	補委	文部科学省
細胞シート工学を応用した乳歯歯髄幹細胞による唇顎口蓋裂患者の新規顎裂治療法の開発	柳生 貴裕	口腔外科学	1,820,000	補委	文部科学省
ナノコーティング技術により生体親和性および骨形成能を向上した人工靭帯の開発	稲垣 有佐	整形外科	1,950,000	補委	文部科学省
Thrombopasを用いた新生児PC制御機構の解明と新たな治療法の開発	中川 隆志	総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門(NICU)	1,430,000	補委	文部科学省
2500人の糖尿病患者集団の10年予後からみた治療戦略に対する検討(H27-循環器一般-001)	斎藤 能彦	第一内科学	2,540,000	補委	厚生労働省
希少難治性筋疾患に関する調査研究(H26-難治等(難)一般-079)	杉江 和馬	神経内科学	1,300,000	補委	厚生労働省
慢性活動性EBウイルス感染症とその類縁疾患の診療ガイドライン作成と患者レジストリの構築	浅田 秀夫	皮膚科学	750,000	補委	厚生労働省
スモンに関する調査研究(H26-難治等(難)指定-003)	上野 聡	神経内科学	700,000	補委	厚生労働省
重症多形滲出性紅斑に関する調査研究(H26-難治等(難)一般-081)	浅田 秀夫	皮膚科学	1,400,000	補委	厚生労働省
血液凝固異常症等に関する研究(H26-難治等(難)一般-063)	松本 雅則	輸血部	1,000,000	補委	厚生労働省
早老症の実態把握と予後改善を目指す集学的研究(H27-難治等(難)一般-017)	谷口 晃	整形外科	500,000	補委	厚生労働省
呼吸不全に関する調査研究(H26-難治等(難)一般-076)	木村 弘	第二内科学	150,000	補委	厚生労働省
循環器難病に随伴する後天性フォンウィルブランド症候群の診断基準・重症度分類の確立	松本 雅則	輸血部	1,000,000	補委	厚生労働省
特発性心筋症に関する調査研究(H26-難治等(難)一般-043)	斎藤 能彦	第一内科学	200,000	補委	厚生労働省
成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの構築に関する研究(H28-新興行政一般-005)	笠原 敬	感染症センター	500,000	補委	厚生労働省
難治性めまい疾患に関する調査研究	北原 紘	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	100,000	補委	厚生労働省
血友病とその治療に伴う種々の合併症克服に関する研究	嶋 緑倫	小児科学	10,100,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
官民共同による重篤副作用バイオマーカー開発	浅田 秀夫	皮膚科学	4,030,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
関節鏡視下自己骨髄間葉系幹細胞移植による関節軟骨欠損修復-多施設共同、非盲検、ランダム化、並行比較試験	稲垣 有佐	整形外科	400,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
難治性めまい疾患の診療の質を高める研究	北原 紘	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	350,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
マイクロニードル技術を活用した「貼るワクチン製剤」の実用化推進研究	小豆澤 宏明	皮膚科学	1,235,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
重症薬疹における特異的細胞死誘導受容体をターゲットにした新規治療薬開発	小豆澤 宏明	皮膚科学	1,300,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
視神経脊髄炎の再発に対するリソキマブの有用性を検証する第II/III相 多施設共同プラセボ	桐山 敬生	神経内科学	500,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
遺伝性心血管疾患における集中的な遺伝子解析及び原因究明に関する研究	斎藤 能彦	第一内科学	1,000,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
子宮内膜症の病態解明、および予防・治療法の開発	小林 浩	産婦人科学	1,600,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構

最新のIVRによる症状緩和についての研究	田中 利洋	放射線医学	1,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
脳卒中を含む循環器病の診療情報の収集のためのシステムの開発に関する研究	斎藤 能彦(～ H28.6.29まで) 岡山 悟志 (H28.6.30～)	第一内科学	520,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
慢性心不全患者に対する多職種介入を伴う外来・在宅心臓リハビリテーションの臨床的効果と医療経済的効果を調べる研究	斎藤 能彦(～ H28.6.29まで) 岡山 悟志 (H28.6.30～)	第一内科学	390,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
脳卒中を含む循環器病対策の評価指標の開発に関する研究	斎藤 能彦(～ H28.6.29まで) 岡山 悟志 (H28.6.30～)	第一内科学	390,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
脳卒中を含む急性循環器疾患の救急医療の適確化をめざした評価指標の確立に関する研究	斎藤 能彦(～ H28.6.29まで) 岡山 悟志 (H28.6.30～)	第一内科学	390,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
脳卒中を含む急性循環器疾患の救急医療の適確化をめざした評価指標の確立に関する研究	奥地 一夫	救急医学	390,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発	藤本 清秀	泌尿器科学	273,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
精神疾患患者に対する早期介入とその体制の確立のための研究	岸本 年史	精神医学	1,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
新規分子標的薬による皮膚障害の調査および重症化予防の研究	浅田 秀夫	皮膚科学	3,450,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
さらなる適正使用に向けた、血液製剤の使用と輸血療法の実施に関する研究	松本 雅則	輸血部	260,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
日本人糖尿病の合併症重症度評価パネルの確立と重症化予防の為に効果的医療連携体制の	緒方 奈保子	眼科学	260,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
拡張相肥大大型心筋症を対象とした多施設登録観察研究	斎藤 能彦	第一内科学	200,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
治験の実施に関する研究[エプレレノン]	斎藤 能彦	第一内科学	2,640,000	補 委	公益社団法人 日 本医師会 治験促 進センター
治験の実施に関する研究 [5ALA・SFC]	榊原 崇文	小児科学	860,000	補 委	公益社団法人 日 本医師会 治験促 進センター
糖尿病患者における心血管疾患予防の最適化に関する研究(24-4-1)	斎藤 能彦	第一内科学	350,000	補 委	独立行政法人 国 立循環器病研究セ ンター
本邦におけるHFpEFの実態に関する多施設共同調査研究(24-4-2)	斎藤 能彦	第一内科学	500,000	補 委	独立行政法人 国 立循環器病研究セ ンター
心血管リスクに伴う認知症発症機序の解明とその解決(25-4-5)	安野 史彦	精神医学	200,000	補 委	独立行政法人 国 立循環器病研究セ ンター
循環器疾患診療実態調査(JROAD)におけるJROAD-DPCと臨床データのValidationに関する	斎藤 能彦	第一内科学	560,000	補 委	独立行政法人 国 立循環器病研究セ ンター
循環器疾患患者を対象とした在宅ヘルスケア・システムの研究開発(142307007)	小林 浩	産婦人科学	370,000	補 委	総務省
低侵襲に子宮内膜症の悪性化を評価できる光学経膣プローブの開発	小林 浩	産婦人科学	6,154,000	補 委	経済産業 省
膝回旋不安定性の非侵襲的かつ簡便な定量化技術の開発	小川 宗宏	整形外科学	1,427,360	補 委	経済産業 省
修復術後再断裂防止のための腱板着着技術の開発	井上 和也	整形外科学	1,000,000	補 委	(公財)整形災害外 科学研究助成財団
殺細胞処理骨形成細胞シートの骨再生医療への応用(同種移植を目指して)	大西 正展	整形外科学	1,000,000	補 委	(公財)整形災害外 科学研究助成財団
循環器疾患における後天性フォンビレブランド症候群の診断と治療法の開発	早川 正樹	輸血部	2,500,001	補 委	(公財)循環器病研 究振興財団 (バイエル循環器病 研究助成金)
耳鳴動物モデルの確立と治療法の開発	大山寛毅	耳鼻咽喉・頭頸部外 科学	1,000,000	補 委	(公財)大阪難病研 究財団

認知症患者の認知・心理・生活機能障害の介護負担への影響の検討	松岡 究	精神医学	1,000,000	補委	公益財団法人 日本生命財団
新規バイオマーカーPIGFによる腎性貧血の発症ならびに進展の予測	松井 勝	第一内科学	800,000	補委	公益財団法人 日本腎臓財団
PIGF/sFlt-1系による腎硬化症進展の機序解明	松井 勝	第一内科学	1,000,000	補委	公益財団法人 MSD生命科学財団 研究助成
緑内障が生体リズムに及ぼす影響—高齢者100名の前向きコホート研究ベースライン横断解析	吉川 匡宣	眼科学	1,000,000	補委	公益財団法人 三井住友海上福祉財団
炭酸ガスレーザーによる医療用材料表面への機能性アパタイトの溶着加工	古川 彰	整形外科学	1,850,000	補委	公益財団法人 天田財団 平成28年度 一般研究開発助成
切除可能両葉多発大腸癌肝転移に対するFOLFOX療法併用イリノテカン溶出性ビーズを用いたプロテインCおよびプロテインSによる凝固第八因子の制御機構の解明および新規血友病A治療製	野見 武男	消化器・総合外科学	800,000	補委	公益財団法人 がん集学的治療研究財団
統合失調症における脳神経シナプスのスパイン密度の低下の制御機構の解明	武山 雅博	小児科学	1,000,000	補委	公益財団法人 先進医薬研究振興財団
慢性腎臓病における可溶性Flt-1による動脈硬化症抑制機序に関する検討	紀本 創兵	精神医学	1,000,000	補委	公益財団法人 先進医薬研究振興財団
慢性腎臓病における可溶性Flt-1による動脈硬化症抑制機序に関する検討	松井 勝	第一内科学	500,000	補委	公益財団法人 日本応用酵素協会
緑内障・高齢者の睡眠・認知機能・うつ症状に与える影響	吉川 匡宣	眼科学	650,000	補委	公益財団法人 大阪ガスグループ福祉財団

小計10
計173

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭者名の 特定機能病 院における	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Ogawa T Uchiyama- Nakamura F Sugata-	感染制御内 科	Antibody Response to Live Attenuated Vaccines in Adults in Japan.	Open medicine (Warsaw, Poland). 2016 Nov;11(1):482-	Original Article
2	Kai Y Tomoda K Nakamura A et al.	呼吸器・アレ ルギー・血 液内科	Silencing of Carbohydrate Sulfotransferase 15 Hinders Murine Pulmonary Fibrosis Development.	Molecular therapy. Nucleic acids. 2017 Mar	Original Article
3	Kuwata H Ishii H et al.	糖尿病セン ター	Higher levels of physical activity are independently associated with a lower incidence of diabetic retinopathy in Japanese patients with type 2 diabetes: A prospective cohort study, Diabetes Distress and Care Registry at Tenri (DDCRT15).	PloS one. 2017 Mar 3;12(3):e017289 0 (オンライン)	Original Article
4	Yoneda T Iemura Y Onishi K et al.	泌尿器科	Effect of Gender Differences on Transplant Kidney Function.	Transplantation proceedings.201 7 Jan - Feb;49(1):61- 64	Original Article
5	Ishii H et al.	糖尿病セン ター	Improvement of quality of life through glycemic control by liraglutide, a GLP-1 analog, in insulin-naïve patients with type 2 diabetes mellitus: the PAGE1 study.	Diabetology & metabolic syndrome. 2017 Jan;9:3 (オンラ イン)	Original Article
6	Tanaka N Fujimoto K Hirao Y et al.	泌尿器科	The efficacy and safety of docetaxel-based chemotherapy combined with dexamethasone 1 mg daily oral administration: JMTO Pca 10-01 phase II trial.	Japanese journal of clinical oncology. 2017 Mar;47(3):247- 251	Original Article
7	Park HS Nakagawa I Yokoyama S et al.	脳神経外科	Amplitude of Tissue Oxygenation Index Change Predicts Cerebral Hyperperfusion Syndrome During Carotid Artery Stenting.	World neurosurgery. 2017 Mar;99:548- 555	Original Article
8	Okazaki K Makinodan M Yamamuro K et al.	精神科	Blonanserin treatment in patients with methamphetamine-induced psychosis comorbid with intellectual disabilities.	Neuropsychiatri c disease and treatment. 2016 Dec;12:3195- 3198	Original Article
9	Makinodan M Ikawa D Yamashita Y et al.	精神科	Tumor necrosis factor-alpha expression in peripheral blood mononuclear cells correlates with early childhood social interaction in autism spectrum disorder.	Neurochemistry international. 2017 Mar;104:1-5	Original Article
10	Yasuno F Matsuoka K Takahashi M et al.	精神科	Use of T1-weighted/T2-weighted magnetic resonance ratio to elucidate changes due to amyloid beta accumulation in cognitively normal subjects.	NeuroImage. Clinical. 2016 Dec;13:209- 214	Original Article

小計4件

小計4件

11	Yamamuro K Ota T Nakanishi Y et al.	精神科	Associations between the mismatch-negativity component and symptom severity in children and adolescents with attention deficit/hyperactivity disorder.	Neuropsychiatric disease and treatment. 2016 Dec;12:3183-3190	Original Article
12	Iwata E Shigematsu H Okuda A et al.	整形外科	Lymphopenia at 4 Days Postoperatively Is the Most Significant Laboratory Marker for Early Detection of Surgical Site Infection Following Posterior Lumbar Instrumentation Surgery.	Asian spine journal. 2016 Dec;10(6):1042-1046	Original Article
13	Nakagawa I Yokoyama S Omoto K et al.	脳神経外科	omega-3 Fatty Acids Ethyl Esters Suppress Cerebral Vasospasm and Improve Clinical Outcome Following Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage.	World neurosurgery. 2017 Mar;99:457-464	Original Article
14	Saito Y Okada S et al.	循環器内科	Low-Dose Aspirin for Primary Prevention of Cardiovascular Events in Patients With Type 2 Diabetes Mellitus: 10-Year Follow-Up of a Randomized Controlled Trial.	Circulation. 2017 Feb;135(7):659-670	Original Article
15	Fukutome K Nakagawa I Park HS et al.	脳神経外科	Resolution of Trigeminal Neuralgia After Transvenous Embolization of a Cavernous Sinus Dural Arteriovenous Fistula.	World neurosurgery. 98, 880.e5-880.e8, 2017 2016/11/22	Original Article
16	Takano M Morita K Takeda M et al.	病理診断科	Keratin 19 as a key molecule in progression of human hepatocellular carcinomas through invasion and angiogenesis.	BMC cancer. 2016 Nov 18;16(1):903 (オンライン)	Original Article
17	Motoyama Y Hironaka Y Nishimura F et al.	脳神経外科	Quantitative analysis of the trajectory of simulated basilar apex aneurysms through the internal carotid artery to assess the need for an orbitozygomatic approach.	Acta neurochirurgica. 2017 Jan;159(1):85-92	Original Article
18	Yasuno F et al.	精神科	Interhemispheric functional disconnection because of abnormal corpus callosum integrity in bipolar disorder type II.	BJPsych open. 2016 Nov;2(6):335-340	Original Article
19	Nakai Y Miyake M Morizawa Y et al.	泌尿器科	Potential biomarkers for the therapeutic efficacy of sorafenib, sunitinib and everolimus.	Oncology reports. 2017 Jan;37(1):227-234	Original Article
20	Matsuura H Inoue S Kawaguchi M	麻酔科	The risk of postoperative nausea and vomiting between surgical patients received propofol and sevoflurane anesthesia: A matched study.	Acta anaesthesiologica Taiwanica. 2016 Dec;54(4):114-120	Original Article

小計4件

小計5件

21	Matsuoka K Yasuno F Takahashi M et al.	精神科	Test-retest reproducibility of extrastriatal binding with 123I-FP-CIT SPECT in healthy male subjects.	Psychiatry research. 2016 Dec;258:10-15	Original Article	小計4件
22	Yasukawa M Kawaguchi T Kawai N et al.	胸部心臓外科、呼吸器外科	Minodronic Acid in Combination with gammadelta T Cells Induces Apoptosis of Non-small Cell Lung Carcinoma Cell Lines.	Anticancer research. 2016 Nov;36(11):5883-5886	Original Article	
23	Atsuta J Inoue S Tanaka Y et al.	麻酔科	Fosaprepitant versus droperidol for prevention of PONV in craniotomy: a randomized double-blind study.	Journal of anesthesia. 2017 Feb;31(1):82-88	Original Article	
24	Namisaki T Moriya K Kitade M et al.	消化器・内分泌代謝内科	Clinical significance of the Scheuer histological staging system for primary biliary cholangitis in Japanese patients.	European journal of gastroenterology & hepatology. 2017 Jan;29(1):23-30	Original Article	
25	Nishi T Ueda T Mizusawa Y et al.	眼科	Choroidal Structure in Children with Anisohypermetropic Amblyopia Determined by Binarization of Optical Coherence Tomographic Images.	PloS one. 2016 Oct;11(10):e0164672 (オンライン)	Original Article	小計5件
26	Matsumoto T Nogami K Shima M	小児科	A combined approach using global coagulation assays quickly differentiates coagulation disorders with prolonged aPTT and low levels of FVIII activity.	International journal of hematology. 2017 Feb;105(2):174-183	Original Article	
27	Wajima D Nakagawa I Nakase H et al.	脳神経外科	Effectiveness of Intracranial Percutaneous Transluminal Angioplasty or Stenting for Atherosclerotic Vertebrobasilar Artery Occlusion in the Acute Phase of Ischemic Stroke.	World neurosurgery. 2017 Jan;97:253-260	Original Article	
28	Yamamuro K Kishimoto N Ota T et al.	精神科	A longitudinal, event-related potential pilot study of adult obsessive-compulsive disorder with 1-year follow-up.	Neuropsychiatric disease and treatment. 2016 Sep;12:2463-2471	Original Article	
29	Shigematsu H et al.	整形外科	Cervical spinal canal stenosis first presenting after spinal cord injury due to minor trauma: An insight into the value of preventive decompression.	Journal of orthopaedic science. 2017 Jan;22(1):22-26	Original Article	
30	Kishimoto N Yamamuro K Ota T et al.	精神科	Distinctive Rorschach profiles of young adults with schizophrenia and autism spectrum disorder.	Neuropsychiatric disease and treatment. 2016 Sep;12:2403-2410	Original Article	
31	Yamamuro K Ota T Kishimoto N et al.	精神科	Persistence of impulsivity in pediatric and adolescent patients with obsessive-compulsive disorder.	Psychiatry and clinical neurosciences. 2017 Jan;71(1):36-43	Original Article	

32	Hokuto D Nomi T Yamato I et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	The prognosis of liver resection for patients with four or more colorectal liver metastases has not improved in the era of modern chemotherapy.	Journal of surgical oncology. 2016 Dec;114(8):959-965	Original Article
33	Hokuto D Nomi T Kawaguchi C et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	The Administration of Celecoxib as an Analgesic after Liver Resection Is Safe.	Digestive surgery. 2017 Feb;34(2):108-113	Original Article 小計7件
34	Mikami S Ota I Masui T et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Effect of resveratrol on cancer progression through the REG expression pathway in head and neck cancer cells,	International journal of oncology. 2016 Oct;49(4):1553-1560	Original Article
35	Fujita Y Yamauchi M Uyama H et al.	呼吸器・アレルギー・血液内科	Variability of breathing during wakefulness while using CPAP predicts adherence.	Respirology (Carlton, Vic.). 2017 Feb;22(2):386-393	Original Article
36	Tanaka Y Kawaguchi M et al.	麻酔科	Systematic review of motor evoked potentials monitoring during thoracic and thoracoabdominal aortic aneurysm open repair surgery: a diagnostic meta-analysis.	Journal of anesthesia. 2016 Dec;30(6):1037-1050	Original Article
37	Miyake M Tatsumi Y Fujimoto K et al.	泌尿器科	Changes in oncological outcomes after radical nephroureterectomy in patients with upper urinary tract urothelial carcinoma treated in the last two decades: a retrospective analysis based on a multicenter collaborative study.	Japanese journal of clinical oncology. 2016 Dec;46(12):1148-1155	Original Article
38	Matsuoka K Yasuno F Kishimoto T et al.	精神科	Microstructural Differences in the Corpus Callosum in Patients With Bipolar Disorder and Major Depressive Disorder.	The Journal of clinical psychiatry. 2017 Jan;78(1):99-104	Original Article
39	Hori S Miyake M Onishi S et al.	泌尿器科	Clinical significance of alpha and betaKlotho in urothelial carcinoma of the bladder.	Oncology reports. 2016 Oct;36(4):2117-25	Original Article 小計6件
40	Matsunari Y Kawaguchi M et al.	麻酔科	Functional characterization of tissue factor in von Willebrand factor-dependent thrombus formation under whole blood flow conditions.	International journal of hematology. 2016 Dec;104(6):661-668	Original Article

41	Yamamuro K Ota T Kishimoto N et al.	精神科	A longitudinal event-related potential study of selective serotonin reuptake inhibitor therapy in treatment-naïve pediatric obsessive compulsive disorder patients.	Psychiatry research. 2016 Nov;245:217-223	Original Article
42	Sonobe S Inoue S Kawaguchi M	麻酔科	The effects of intensive care environment on postoperative nightmare.	Journal of anesthesia. 2016 Dec;30(6):970-976	Original Article
43	Cho T Morikawa M Kishimoto T et al.	精神科	Two-year prognosis after residential treatment for patients with alcohol dependence: three chief guidelines for sobriety in Japan.	Neuropsychiatric disease and treatment. 2016 Aug;12:1983-91	Original Article
44	Watanabe M Kita Y Sugawara Y et al.	循環器・腎臓・代謝内科	Impact of branching angle on neointimal coverage of drug-eluting stents implanted in bifurcation lesions.	Coronary artery disease. 2016 Dec;27(8):682-689	Original Article
45	Fukushima H et al.	救急科	Barriers to telephone cardiopulmonary resuscitation in public and residential locations.	Resuscitation. 2016 Dec;109:116-120	Original Article
46	Okura H et al.	循環器・腎臓・代謝内科	Comparison of Left Ventricular Relaxation and Left Atrial Function in Patients With Heart Failure and Preserved Ejection Fraction Versus Patients With Systemic Hypertension and Healthy Subjects.	The American journal of cardiology. 2016 Oct;118(7):1019-23	Original Article
47	Matsushita C Torimoto K Goto D et al.	泌尿器科	Linkage of Lower Urinary Tract Symptoms to Sleep Quality in Elderly Men with Nocturia: A Community Based Study Using Home Measured Electroencephalogram Data.	The Journal of urology. 2017 Jan;197(1):204-209	Original Article
48	Inagaki Y Tanaka Y et al.	整形外科	Dendritic and mast cell involvement in the inflammatory response to primary malignant bone tumours.	Clinical sarcoma research. 2016 Aug;6:13 (オンライン)	Original Article
49	Nakamura Y Miyagawa F Okazaki A et al.	救急科	Clinical and immunologic features of recurrent herpes zoster (HZ).	Journal of the American Academy of Dermatology. 2016 Nov;75(5):950-956.e1	Original Article

小計6件

50	Yamada S Nakase H Nakagawa I et al.	脳神経外科	Diagnosing intra-cranial and cervical artery dissection using MRI as the initial modality.	Journal of clinical neuroscience. 2016 Nov;33:177-181	Original Article	
51	Nakai Y Anai S Tanaka N et al.	泌尿器科	Insignificant role of bacillus Calmette-Guerin maintenance therapy after complete transurethral resection of bladder tumor for intermediate- and high-risk non-muscle-invasive bladder cancer: Results from a randomized trial.	International journal of urology. 2016 Oct;23(10):854-860	Original Article	小計6件
52	Egawa J Inoue S Nishiwada T et al.	麻酔科	Effects of anesthetics on early postoperative cognitive outcome and intraoperative cerebral oxygen balance in patients undergoing lung surgery: a randomized clinical trial.	Canadian journal of anaesthesia. 2016 Oct;63(10):1161-9	Original Article	
53	Sugiura T Yamamoto K Horita S et al.	歯科口腔外科	The effects of bone density and crestal cortical bone thickness on micromotion and peri-implant bone strain distribution in an immediately loaded implant: a nonlinear finite element analysis.	Journal of periodontal & implant science. 2016 Jun;46(3):152-65	Original Article	
54	Kitahara T Sakagami M Ito T et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	A Two-Year Randomized Trial of Interventions to Decrease Stress Hormone Vasopressin Production in Patients with Meniere's Disease-A Pilot Study.	PloS one. 2016 Jun 30;11(6):e0158309 (オンライン)	Original Article	
55	Hayashi H Kawanishi H Kawaguchi M et al.	麻酔科	Ocular Blood Flow Measured Using Laser Speckle Flowgraphy During Aortic Arch Surgery With Antegrade Selective Cerebral Perfusion.	Journal of cardiothoracic and vascular anesthesia. 2016 Jun;30(3):613-8	Original Article	
56	Wada Y Kitahara T Yamanaka T et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Effects of repeated snowboard exercise in virtual reality with time lags of visual scene behind body rotation on head stability and subjective slalom run performance in healthy young subjects.	Acta otolaryngologica. 2016 Nov;136(11):1121-1124	Original Article	小計5件
57	Yamamuro K Ota T Nakanishi Y et al.	精神科	Event-related potentials reflect the efficacy of pharmaceutical treatments in children and adolescents with attention deficit/hyperactivity disorder.	Psychiatry research. 2016 Aug;242:288-94	Original Article	
58	Matsui M Samejima K Takeda Y et al.	循環器・腎臓・代謝内科	Angiogenic Factors and Risks of Technique Failure and Cardiovascular Events in Patients Receiving Peritoneal Dialysis.	Cardiorenal medicine. 2016 May;6(3):251-9	Original Article	

59	Shima M Nogami K et al.	小児科	Factor VIII-Mimetic Function of Humanized Bispecific Antibody in Hemophilia A.	The New England journal of medicine. 2016 May;374(21):2044-53	Original Article
60	Yamanaka T Sawai Y Murai T et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Long-term effects of electrotactile sensory substitution therapy on balance disorders.	Neuroreport. 2016 Jul;27(10):744-8	Original Article
61	Namisaki T Moriya K Noguchi R et al.	消化器・内分泌代謝内科	Liver fibrosis progression predicts survival in patients with primary biliary cirrhosis.	Hepatology research. 2017 Mar;47(3):E178-E186	Original Article
62	Ueda T Watanabe M Dote Y et al.	循環器・腎臓・代謝内科	Thin-cap fibroatheroma and large calcification at the proximal stent edge correlate with a high proportion of uncovered stent struts in the chronic phase.	Coronary artery disease. 2016 Aug;27(5):376-84	Original Article
63	Matsuda Y Morimoto T Kishimoto T et al.	精神科	Feasibility and effectiveness of a cognitive remediation programme with original computerised cognitive training and group intervention for schizophrenia: a multicentre randomised trial.	Neuropsychological rehabilitation, 2016 May:1-11	Original Article
64	Migita K Matsumoto S Wakatsuki K et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	The anatomical location of the pancreas is associated with the incidence of pancreatic fistula after laparoscopic gastrectomy.	Surgical endoscopy. 2016 Dec;30(12):5481-5489	Original Article
65	Iwata E Shigematsu H Okuda A et al.	整形外科	Lymphopenia and Elevated Blood C-Reactive Protein Levels at Four Days Postoperatively Are Useful Markers for Early Detection of Surgical Site Infection Following Posterior Lumbar Instrumentation Surgery.	Asian spine journal. 2016 Apr;10(2):220-5	Original Article
66	Nakagawa M Omokawa S Kira T et al.	整形外科	Vascularized Bone Grafts from the Dorsal Wrist for the Treatment of Kienbock Disease.	Journal of wrist surgery. 2016 May;5(2):98-104	Original Article
67	Koike N Oi H Naruse K et al.	産婦人科	Evaluation of vaginal fluid squamous cell carcinoma antigen test in diagnosis of premature rupture of membranes.	The journal of maternal-fetal & neonatal medicine. 2017 Feb;30(3):334-337	Original Article

小計6件

小計5件

68	Ito T Kitahara T Ota I et al.	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科	Endolymphatic space size in patients with Meniere's disease and healthy controls.	Acta otolaryngologica. 2016 Sep;136(9):879-82	Original Article
69	Nogami K Ogiwara K Yada K et al.	小児科	Assessing the clinical severity of type 1 von Willebrand disease patients with a microchip flow-chamber system.	Journal of thrombosis and haemostasis : JTH. 2016 Apr;14(4):667-74	Original Article
70	Yamamuro K Ota T Iida J et al.	精神科	Event-Related Potentials Correlate with the Severity of Child and Adolescent Patients with Attention Deficit/Hyperactivity Disorder.	Neuropsychobiology. 2016 Jun;73(3):131-8	Original Article
71	Yamashita K Yagi H Hayakawa M et al.	心臓血管外科、呼吸器外科	Rapid Restoration of Thrombus Formation and High-Molecular-Weight von Willebrand Factor Multimers in Patients with Severe Aortic Stenosis After Valve Replacement.	Journal of atherosclerosis and thrombosis. 2016 Oct;23(10):1150-1158	Original Article
72	Yamamuro K Kimoto S Kishimoto N et al.	精神科	Reduced Prefrontal Cortex Hemodynamic Response in Adults with Methamphetamine Induced Psychosis: Relevance for Impulsivity.	PloS one. 2016 Apr;11(4):e0152373 (オンライン)	Original Article
73	Noguchi T Sado T Naruse K et al.	産婦人科	Vaginal fluid pH and buffer capacity for predicting false preterm labor in Japanese women.	International journal of gynaecology and obstetrics. 2016 Jul;134(1):69-74	Original Article
74	Morizawa Y Miyake M Hori S et al.	泌尿器科	Neutrophil-to-lymphocyte ratio as a detection marker of tumor recurrence in patients with muscle-invasive bladder cancer after radical cystectomy.	Urologic oncology. 2016 Jun;34(6):257.e11-7	Original Article
75	Watanabe M Onoue K et al.	循環器・腎臓・代謝内科	Prediction of contrast-induced nephropathy by the serum creatinine level on the day following cardiac catheterization.	Journal of cardiology. 2016 Nov;68(5):412-418	Original Article
76	Miyamae R Nishimura T Saito O et al.	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科	Perception of speech in cartilage conduction.	Auris, nasus, larynx. 2017 Feb;44(1):26-32	Original Article

小計6件

77	Kitahara T Yamanaka T	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科	Identification of operculum and surgical results in endolymphatic sac drainage surgery.	Auris, nasus, larynx. 2017 Feb;44(1):116-118	Original Article
78	Nomi T Nakajima Y et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Outcomes of Laparoscopic Liver Resection for Patients with Large Colorectal Liver Metastases: A Case-Matched Analysis.	World journal of surgery. 2016 Jul;40(7):1702-8	Original Article
79	Sakagami M Kitahara T Okayasu T et al.	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科	Negative prognostic factors for psychological conditions in patients with audiovestibular diseases.	Auris, nasus, larynx. 2016 Dec;43(6):632-6	Original Article
80	Hashimoto T Ichihashi S Iwakoshi S et al.	放射線科	Combination of pulse volume recording (PVR) parameters and ankle-brachial index (ABI) improves diagnostic accuracy for peripheral arterial disease compared with ABI alone.	Hypertension research. 2016 Jun;39(6):430-4	Original Article
81	Inagaki Y Munemoto M Tanaka Y et al.	整形外科	Sclerostin expression in bone tumours and tumour-like lesions.	Histopathology. 2016 Sep;69(3):470-8	Original Article
82	Iwata E Shigematsu H Okuda A et al.	整形外科	Lymphocyte Count at 4 Days Postoperatively and CRP Level at 7 Days Postoperatively: Reliable and Useful Markers for Surgical Site Infection Following Instrumented Spinal Fusion.	Spine. 2016 Jul;41(14):1173-8	Original Article
83	Okura H et al.	循環器・腎臓・代謝内科	Renin-angiotensin system inhibitors in patients with myocardial infarction and secondary mitral regurgitation.	Heart. 2016 May;102(9):694-700	Original Article
84	Akahori T Sho M Kinoshita S et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Factors associated with failure to complete adjuvant chemotherapy in pancreatic cancer.	American journal of surgery. 2016 Apr;211(4):787-92	Original Article
85	Mizuno R Yamazaki M	中央臨床検査部	Clinical importance of detecting exaggerated blood pressure response to exercise on antihypertensive therapy.	Heart. 2016 Jun;102(11):849-54	Original Article

小計7件

86	Ota M Kimura H et al.	呼吸器・アレルギー・血液内科	ADAM23 is downregulated in side population and suppresses lung metastasis of lung carcinoma cells.	Cancer science. 2016 Apr;107(4):433-43	Original Article	小計6件
87	Yasuno F Matsuoka K Kosaka J et al.	精神科	High amyloid-beta deposition related to depressive symptoms in older individuals with normal cognition: a pilot study.	International journal of geriatric psychiatry. 2016 Aug;31(8):920-8	Original Article	
88	Hashimoto A Tanaka T Nishiofuku H et al.	放射線科	Adjuvant Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy After Resection for Pancreatic Cancer Using Coaxial Catheter-Port System Compared with Conventional System.	Cardiovascular and interventional radiology. 2016 Jun;39(6):831-9	Original Article	
89	Nakada Y Kawakami R Nakano T et al.	循環器・腎臓・代謝内科	Sex differences in clinical characteristics and long-term outcome in acute decompensated heart failure patients with preserved and reduced ejection fraction.	American journal of physiology. Heart and circulatory physiology. 2016 Apr;310(7):H813-20	Original Article	
90	Yokota Y Kitahara T Sakagami M et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Surgical results and psychological status in patients with intractable Meniere's disease.	Auris, nasus, larynx. 2016 Jun;43(3):287-91	Original Article	
91	Inoue T Koyama F Nakamura S et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Intraluminal lavage to remove exfoliated tumor cells after colorectal endoscopic submucosal dissection.	Surgical endoscopy. 2016 Jul;30(7):2773-8	Original Article	
92	Okamoto M Matsuura T Ogata N	眼科	EFFECTS OF PANRETINAL PHOTOCOAGULATION ON CHOROIDAL THICKNESS AND CHOROIDAL BLOOD FLOW IN PATIENTS WITH SEVERE NONPROLIFERATIVE DIABETIC RETINOPATHY.	Retina. 2016 Apr;36(4):805-11	Original Article	小計6件

93	Miyata K Nishi T Ogata N et al.	眼科	Higher Cognitive Function in Elderly Individuals with Previous Cataract Surgery: Cross-Sectional Association Independent of Visual Acuity in the HEIJO-KYO Cohort.	Rejuvenation research. 2016 Jun;19(3):239-43	Original Article
94	Nishiofuku H Tanaka T Kichikawa K et al.	放射線科	Increased tumour ADC value during chemotherapy predicts improved survival in unresectable pancreatic cancer.	European radiology. 2016 Jun;26(6):1835-42	Original Article
95	Migita K Takayama T Matsumoto S et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Impact of being underweight on the long-term outcomes of patients with gastric cancer.	Gastric cancer. 2016 Jul;19(3):735-43	Original Article
96	Nakada Y et al.	循環器・腎臓・代謝内科	The predictability of renin-angiotensin-aldosterone system factors for clinical outcome in patients with acute decompensated heart failure.	Heart and vessels. 2016 Jun;31(6):925-31	Original Article

小計4件
計96件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report

3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 手順書の主な内容 委員会の構成、責務、審査とその判定、審査書類の準備と手続き、事務局業務について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 9 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 規定の主な内容 目的、適用範囲、利益相反管理委員会、利益相反に関する相談室、自己申告書の提出、委員会における審査等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 5 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 0 回
・ 研修の主な内容 人を対象とする医学系研究及びヒトゲノム・遺伝子解析研究を実施するために必要な倫理課題について（被験者保護、データの質管理、計画書の遵守等）	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科が総合的な臨床力を重視するとともにさまざまな専門医養成コースを準備しており、複数科連携プログラムも稼働している。このため各人がそれぞれのニーズに合わせてキャリアデザインを組むことが可能となっている。
内科各科の連携は密接で内科合同カンファレンスを定期的に開催するとともに、総合内科専門医養成コースを設けている。
さらに、附属病院として、緩和ケアを含むがん薬物療法および放射線治療に関する知識・技術を修得した総合的ながん専門医を養成するためのプログラムを策定し、「がん薬物療法専門医」養成コースも設けている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数 91人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
斎藤 能彦	循環器・腎臓・代謝内科	教授	36年	
山内 基雄	呼吸器・アレルギー・血液内科	准教授	22年	
吉治 仁志	消化器・内分泌代謝内科	教授	30年	
杉江 和馬	神経内科	准教授	22年	
庄 雅之	消化器外科・小児外科・乳腺外科	教授	26年	
中瀬 裕之	脳神経外科	教授	34年	
谷口 繁樹	心臓血管外科	教授	35年	
田中 康仁	整形外科	教授	33年	
小林 浩	産婦人科	教授	37年	
緒方 奈保子	眼科	教授	34年	
嶋 緑倫	小児科	教授	38年	
岸本 年史	精神科	教授	36年	
浅田 秀夫	皮膚科	教授	33年	
藤本 清秀	泌尿器科	教授	30年	
北原 糺	耳鼻咽喉・頭頸部外科	教授	25年	
吉川 公彦	放射線科 (画像診断・IVR)	教授	37年	
長谷川 正俊	放射線治療・核医学科	教授	35年	
川口 昌彦	麻酔科	教授	29年	

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
西尾 健治	総合診療科	教授	35年	
桐田 忠昭	歯科口腔外科	教授	34年	
奥地 一夫	救急科	教授	37年	
三笠 桂一	感染制御内科	教授	37年	
桑原 理充	形成外科	病院教授	22年	
堀川 博誠	リハビリテーション科	病院教授	35年	
大林 千穂	病理診断科	教授	35年	
澤端 章好	呼吸器外科	准教授	29年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 <input type="checkbox"/> 2. 現状 <input checked="" type="checkbox"/>
管理責任者氏名	病院長 古家 仁
管理担当者氏名	病院経営部次長（経営企画課長） 西浦 嘉彦、医療サービス課長 中谷 好伸、病院管理課長 川田 靖之

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院管理課	個々の患者諸記録は電子カルテで一括管理 診療録の院外への持ち出しについては診療録取扱内規により禁止されている。
		各科診療日誌	医療情報部	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	医療情報部	
		看護記録	医療情報部	
		検査所見記録	医療情報部	
		エックス線写真	医療情報部	
		紹介状	医療情報部	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報部	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	各種データ（又は帳冊）
		高度の医療の提供の実績	各診療科	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	各診療科	
		高度の医療の研修の実績	各診療科	
		閲覧実績	実績なし	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療情報部 地域医療連携室	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部	各種データ（又は帳冊）
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進室	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染管理室	各種データ（又は帳冊）
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療技術センター	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全推進室 医療技術センター	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全推進室 医療技術センター			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全推進室 医療技術センター			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全推進室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全推進室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療サービス課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療サービス課
		監査委員会の設置状況	病院管理課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全推進室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全推進室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療相談室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全推進室
職員研修の実施状況	医療安全推進室		
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全推進室		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	病院長 古家 仁
閲覧担当者氏名	病院経営部次長(経営企画課長) 西浦 嘉彦、医療サービス課長 中谷 好伸、病院管理課長 川田 靖之
閲覧の求めに応じる場所	各課 執務室
閲覧の手続の概要	
「公立大学法人奈良県立医科大学個人情報取扱規程」を準用した開示(閲覧)手続による。	
(診療録等個人情報を含む場合)	
1. 開示(閲覧)請求	
↓	
2. 法人内部での決裁	
↓	
3. 総合窓口(県 総務部総務課)への協議	
↓	
4. 決定	
↓	
5. 開示(閲覧)	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医 師	延 0件
	歯 科 医 師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：医療事故の予防・再発防止対策ならびに発生時の適切な対策など、本院における医療安全管理体制を確立し、適切かつ安全で質の高い医療サービスの提供を図ることを目的とした内容になっている。</p> <p>患者に信頼される医療サービスの提供と医療の質的向上を求めていくことを安全管理に関する基本姿勢とし、医療安全管理体制の構築（医療安全管理委員会、医療安全推進室の設置等）、医療安全管理のための院内報告制度等の構築、医療事故発生時の対応方法の確立、職員に対する安全教育・研修の実施等について定めている。</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療安全管理に関する重要案件の審議に関すること。・ 医療安全管理のための基本方針の策定及び変更に関すること。・ 医療事故等の分析と安全管理に係る改善策に関すること。・ 医療事故調査委員会の審議結果を受けた再発防止に向けての検討に関すること。・ 管理委員会で立案された改善策の実施並びに実施状況の調査及び見直しに関すること。・ 医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者との連携に関すること。 <p>等を行う。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年13回
<p>・ 研修の主な内容：「ヒューマンエラーと医療安全」「医薬品安全管理Ⅰ」「医療機器安全管理Ⅰ放射線の安全管理とMRI」「ホスピタリティマインド醸成研修インフォームドコンセントと法と倫理」「チームSTEPPSキックオフ」「RSTセミナー人工呼吸中の安全管理～人工呼吸はこんなに危ない！～」「チームSTEPPS」「転倒予防策のヒント」「高齢入院患者における不眠対応の実践」「せん妄はこう診るこうケアする」「医療機器安全管理Ⅱ呼吸数を診る」「医薬品安全管理Ⅱインスリン関連」「ハラスメント防止研修」</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>①事故報告</p> <ul style="list-style-type: none">○リスクマネージャー会議で事故報告の実施推進を周知し、各部署へ伝達してもらう。また、研修案内一斉メールでお知らせとして周知するとともに、研修会開始前にスライドで周知。中途採用者対象には、DVDで周知。○インシデント・アクシデント報告を全例チェックし、疑義のあるものは室ミーティング、医療安全管理委員会で審議・対応している。死亡報告、オカレンス報告も全例チェックし、事故性の有無を確認し、事故が疑われるものはインシデント・アクシデント報告と同様の対応をしている。（死亡報告は、報告漏れの確認を死亡退院患者一覧との引き合わせで行い、報告がない事例については報告を促している）○インシデント報告システムに「オカレンス報告」を作り、インシデント・アクシデントには至らなかったが、気になったことを報告してもらっている。○分析・対策検討会議でインシデント、アクシデントの原因分析と対策立案を行い、医療安全管理委員会、病院運営協議会で承認を得て実施し、検証を行っている。 <p>②その他</p> <ul style="list-style-type: none">○各部署宛に、事故報告の中で周知が必要と思われる内容を「医療安全ニュース」（医療安全	

推進室作成)として毎月配付するほか、医療安全情報(医療機能評価機構)も毎月配付している。

- 認定病院患者安全協議会主催の研修会等の案内を対象部署に案内している。
- 院内ラウンドを実施して、実態把握と改善指導を行っている。
- RSTラウンドを実施して、人工呼吸器の安全確保と事故防止及び未然確認を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：①院内感染対策に関する基本的考え方、②感染対策のための委員会その他の当該病院等の組織に関する基本的事項、③院内感染対策のための従事者に対する研修に関する基本方針、④感染症の発生状況の報告に関する基本方針、⑤院内感染発生時の対応に関する基本方針、⑥患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針、⑦その他の当該病院等における院内感染対策の推進のために必要な基本方針等、その他感染対策を推進するために必要な基本方針を記載している。</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：病院長、感染症センター長、感染管理室長、看護部長、薬剤部長、中央臨床検査部長、病院経営部長、ICD、ICNなど職種横断的に構成しており、委員は20名。毎月1回開催している。また、耐性菌の検出状況や抗菌薬の使用状況、針刺し事故事例や医療関連感染事例や、従業員に対する研修の実施状況などを報告している。医療関連感染事例の対応や本指針、感染対策に関するマニュアル等の制定・改廃の承認についての審議および意思決定を行っている。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年11回
<p>・ 研修の主な内容：職員に感染対策として周知・徹底したい知識や情報等をテーマとして、全職員対象に研修を実施している。平成28度は11回の集合研修を実施した。また、研修会に参加できない職員を対象にDVD貸出による研修と、DVD視聴できる環境でない職員にはカンファレンスルームでDVD上映研修を実施し、アンケート形式による受講報告書の提出を義務づけた。医師を対象としたE-learningを行った。E-learningでは集合研修を撮影した動画を視聴できるようにしている。未受講者に関しては所属長が未受講理由の報告を書面で提出することで未受講者の状況把握を行っている。</p> <p>またこれとは別に、新規採用および中途採用職員には入職時に研修会を開催し、参加できない職員にはDVD貸出による研修を実施することで当院における感染対策に関する基礎知識と感染対策の推進を行っている。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：病院長を含む病院運営協議会のメンバーを中心とした感染防止委員会 (ICC委員会) および医師、看護師、技師、事務等の各所属から代表者を選出して構成するICT委員会をそれぞれ月1回開催し、院内における感染症の発生状況やその対策について報告し、周知徹底を行っている。</p> <p>さらに、これらのメンバーを中心としたメーリングリストを作成し、「感染対策週報」として感染管理室からのメールによる当院における感染症発生状況を中心に、県内における感染症発症状況等の情報発信を毎週行っている。</p> <p>他にもICTメンバーによる週2回の環境ラウンド (集中ラウンド・全病棟ラウンド)、抗菌薬ラウンド (毎日)、ICTミーティング (毎日) など様々な方策で感染対策の推進・充実に向けた活動を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2回
・ 研修の主な内容： 医薬品安全管理 1：H28年5月13日・麻薬の取り扱いおよび管理について・注意したい注射薬 医薬品安全管理 2：H29年2月24日・インスリン関連のインシデントから考える安全なインスリン治療	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： 医師、看護師のリスクマネージャーに対し、各所属での手順実施状況を確認し薬剤部へ報告 薬剤部についても、まとめて確認を実施	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 病棟担当薬剤師から得られた情報や医療サービス課からの査定情報、厚生労働省およびPMDAからの通知や医薬品安全性情報などから情報を入手し、必要に応じて医薬品情報管理係よりDIニュース等で薬剤部から情報を発信する	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
③ 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容： 新規採用者向けオリエンテーション（医療機器の安全管理） 医療安全管理研修（医療機器の安全管理Ⅰ 放射線の安全管理とMRI検査） （医療機器の安全管理Ⅱ 呼吸数を診る） （RSTセミナー 人工呼吸中の安全管理「人工呼吸器はこんなに危ない」） <p>適宜、病棟・部署単位での勉強会の実施</p> <ul style="list-style-type: none">機器研修 42件（内、新規機器研修 29件）	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医療機器に係る計画の策定 (有・無)保守点検の主な内容： <p>人工呼吸器、透析関連機器、除細動器（AED）、閉鎖式保育器、人工心肺関連機器（補助循環装置）、電気メス、麻酔器、高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線装置の定期点検の実施</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)その他の改善のための方策の主な内容： <p>医療安全推進室とともに、PMDAや日本医療機能評価機構・医療機器センターからの情報の共有 また、業者からの報告情報の共有を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第9条の23第1項第1号から第15号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無								
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理部門：医療安全推進室より必要に応じ報告する。 医療安全管理委員会：副委員長として参加。 医薬品安全管理責任者：医薬品安全管理会議の審議内容を報告する。 医療機器安全管理責任者：改正医療法に基づき、特定機能病院における医療機器関連の保守点検の計画・実施の報告を行う。医療機器安全管理会議の審議内容の報告を行う。</p>									
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（2名）・無								
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報管理係にて、病棟薬剤師からの副作用等の情報を入手、医事データや電子カルテデータからは使用量や査定情報を入手、ヒヤリハット報告などの情報を取得し、必要に応じて医薬品情報管理係よりDIニュース等で薬剤部から情報を発信する。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>先進医療等審査委員会が申請を審議し、新規医療技術等評価委員会及び医の倫理審査委員会へ諮問し、答申を得、先進医療等審査委員会が適否を決定する。処方変更などの事例発生時には、病棟薬剤師より提案し対応し、必要に応じて医薬品情報管理係を通して医薬品安全管理責任者に報告する。</p> <p>・担当者の指名の有無 <input checked="" type="radio"/>有・無</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <table data-bbox="183 1489 1284 1702"><tr><td>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr><tr><td>（所属： ， 職種 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr><tr><td>（所属： ， 職種 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr><tr><td>（所属： ， 職種 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr></table>		（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）
（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無								
<p>・医療の担い手が説明を行う際の実席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 <input checked="" type="radio"/>有・無</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p> <p>：説明等の実施に必要な方法に関する規程については、平成22年から、医療安全管理マニュアルに</p>									

において規定し、運用していたところである。

ただし、インフォームドコンセントについては、本院として非常に重要なものであるとの認識のもと、今般の法令改正を機に、より具体的かつ明確な手順を定める必要があると判断して、平成28年度においては、新たな規定の検討を行った。

そして、従来の医療安全管理マニュアルの規定に替わる「インフォームドコンセントマニュアル」を平成29年7月に制定したところである。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

【診療録の記載内容の確認】

各診療科別に、任意に抽出した患者の診療録の内容をチェックリストに基づき点検を行い、点検結果を診療科にフィードバックした。

【指導内容の主な内容】

- ・手術記録が日本語でなされていない。
- ・研修医の診療録記載に指導医の承認のないものがあった。
- ・インフォームドコンセントに関して、患者の同意の確認の有無の記載がないものがあった。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

- ・所属職員：専従（5）名、専任（1）名、兼任（3）名
 - うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名
 - うち薬剤師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（ ）名
 - うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

- ・医療安全管理のための基本方針の策定及び変更に関すること。
- ・医療事故及びインシデントに関する診療録及び看護記録等の記載事項の確認と指導に関すること。
- ・医療事故等の発生時における患者又は家族等への対応状況の確認及び指導に関すること。
- ・医療事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認と必要な指導に関すること。
- ・医療事故等の分析と安全管理に係る改善策に関すること。
- ・医療事故等の改善策の実施状況の評価、再発防止に向けての検討に関すること。
- ・医療安全に係る情報提供及び連絡調整に関すること。
- ・患者等や職員からの医療・診察の安全に関する相談及び連絡調整に関すること。
- ・リスクマネージャーによる医療安全推進活動に関すること。
- ・肺血栓塞栓症予防体制の確立に向けた活動に関すること。
- ・呼吸サポートチームの活動の調整、記録物等の保管に関すること。
- ・医薬品安全管理に関すること。

- ・医療機器安全管理に関すること。
- ・その他医療安全対策の推進に関すること。
- ・診療内容のモニタリング（褥瘡発生率、肺血塞栓症予防対策実施率）
- ・医療安全の認識のモニタリング（「医療における安全文化に関する調査」）

規則第九条の二十三第一項第六号に規定する措置を講ずる計画

平成 29 年 10 月 1 日現在、医師及び看護師は専従者を置いている。薬剤師については、専任に留まっているが、平成 30 年 4 月 1 日までに専従者を配置する予定である。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 先進医療等審査委員会から諮問があった場合、科学的妥当性、実現可能性について検討し、その提供の適否等に関する評価を答申する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 先進医療等審査委員会から諮問があった場合、科学的妥当性、実現可能性について検討し、その提供の適否等に関する評価を答申する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 監査委員会の設置状況

有・無

- ・監査委員会の開催状況：年 2 回（予定）
- ・活動の主な内容：

- (1) 病院の医療安全管理に関する業務状況について、奈良県立医科大学附属病院長等から報告を受け、必要に応じて確認すること。
- (2) 前号で定める医療安全管理に関する業務とは、病院の医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務を指す。
- (3) 必要に応じ、理事長又は病院長に対して、医療安全管理についての是正措置を講じるよう意見を表明する。
- (4) その他監査委員会委員長が必要と認めること。

- ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有・無) ※H29.11.15、H30.2.8開催予定
- ・ 委員名簿の公表の有無 (有・無)
- ・ 委員の選定理由の公表の有無 (有・無)
- ・ 公表の方法：
病院ホームページでの公表

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
水本 一弘	和歌山県立医科大学 麻酔科学	○	医療安全推進室長であり、医療にかかる安全管理に関する識見を有するため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
加藤 高志	大阪弁護士会 加藤高志法律事務所		医療訴訟経験が豊富で、法律に関する知識を有するため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
末廣 貴子	ボランティアグループ ラポール		病院の状況への理解が深く、医療を受ける側の立場からの客観的意見を得られるため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)

3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年710件（平成28年度）
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年557件（平成28年度）
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - ・医療安全管理に関する重要案件の審議に関すること。
 - ・医療事故等の分析と安全管理に係る改善策に関すること。
- ・医療安全管理委員会で立案された改善策の実施並びに実施状況の調査及び見直しに関すること。

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名： ） 無）
 - ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名： ） 無）
 - ・技術的助言の実施状況
 - ・技術的助言の実施状況：平成29年度において実施する予定である。
 - 立入り：大阪市立大学医学部附属病院（平成29年10月30日実施予定）
 - 受入れ：和歌山県立医科大学附属病院（平成29年12月4日実施予定）
- 評価項目は、近畿管内特定機能病院グループ別会議の施設が協力して作成している。また、その結果は、特定機能病院医療安全連絡会議へ報告する予定である。

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
- 総合相談窓口（医療相談室 相談係）、患者・家族支援室を設置済み

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有・無 ）
- ・窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（ 有・無 ）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有・無 ）

⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

医療法施行規則に従い、研修を実施している。インシデント・アクシデント報告の方法・その後の流れを含む本院医療安全の基礎、及び、本院の現状を基に改善策を提案する内容の研修を行っている。平成 28 年度は前述の内容の他に、転倒予防策のヒント、インフォームドコンセント、せん妄、チーム STEPPS 等に関する研修を行った。平成 28 年度の集合研修は 13 回開催、うち 2 回はランチタイムを利用した集中セミナーを実施した。集合研修を録画した DVD 視聴（個人報告書提出）による研修も行っている。なお、平成 29 年度は e-ラーニングの導入を行っている。

未受講者対策として、本人宛受講促進通知を出すとともに、所属長・リスクマネージャーに促進依頼通知を出している。（平成 28 年度 未受講者 41 名（1.8%）、2 回以上受講率 94.9%）

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者

- ・医療安全教育セミナー2010 夏季（医療安全管理研修）能力向上編 18 時間 30 分
- ・医療安全教育セミナー2010 冬季（ ）実習編 22 時間
（主催：国際予防医学リスクマネジメント連盟（現 国際医療リスクマネジメント学会））
- ・医療事故調査制度に関する研修会（主催：医療安全全国共同行動）

〈予定〉

- ・平成 29 年度特定機能病院管理者研修

医療安全管理責任者

- ・2014 年医療安全講習会（主催：日本脳神経外科学会）

〈予定〉

- ・2017 年医療安全講習会（主催：日本脳神経外科学会）
- ・平成 29 年度特定機能病院管理者研修

医薬品安全管理責任者

- ・医薬品安全管理責任者等講習会（主催：日本病院薬剤師会）

〈予定〉

- ・平成 29 年度特定機能病院管理者研修
- ・平成 29 年 10 月 2 日 日本病院薬剤師会

医療機器安全管理責任者

平成19年度 医療機器安全管理責任者研修会（主催：公益社団法人 日本臨床工学技士会）

〈予定〉

- ・平成29年度特定機能病院管理者研修

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）